第４章　ヤム、キャッサバのバリューチェーン

今回の調査では、ヤム、キャッサバのバリューチェーンとして、農業（生産）、保存、加工、輸送、卸売、小売、輸出、国内消費に分けて現状を把握し、問題点を把握し、課題の解決に繋げる。

本章では、農業および生産の現状と問題点に焦点を当て、次章以降で保存・加工・輸送、卸売・小売、輸出、国内消費について順次説明することとする。

１．　ガーナにおける生産と農業の現状と問題

（１）　　ヤム

ガーナにおけるヤム栽培の現状を見ると、畑に畝ではなく、マウンド（円錐形の盛り土）を作って播種するスタイルが主流である。これは、ガーナ国内で高い需要がある大きいサイズのヤムを作るには、より大きなサイズのマウンドが必要とされるためである。ちなみに標準的なマウンドの高さは60～120cm程度である（実証調査１により確認）。マウンドを作るための適切な農業機械は存在しないため、ヤムの播種までの作業は人手に頼ることとなる。ヤム栽培では生産段階での機械化の難点は、このマウンド作りにある。

しかしながら、サイズの小さいヤムの種イモ生産では畝を使うこともある。この場合にはトラクターおよび耕作機材による畝づくりが可能となる。また、欧州への輸出向けには中サイズのヤムの需要が圧倒的であるため、大きなマウンドを必要としない。むしろ欧州向けの場合、サイズの均一化が求められるため、畝を利用した方が良いという輸出業者からの意見も聞かれた。

ヤムの種イモの採り方には以下の種類がある。

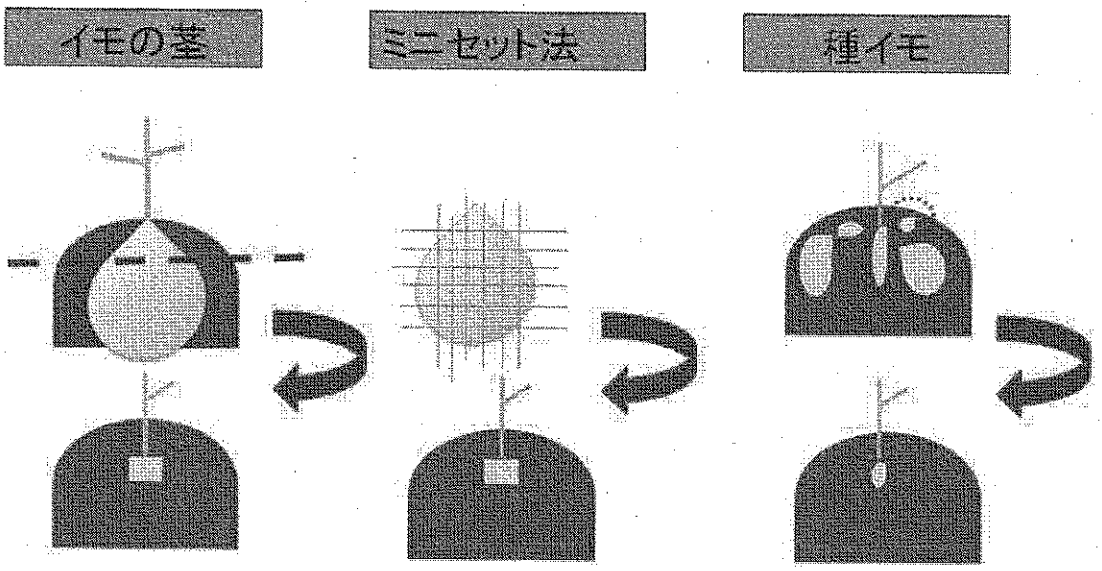
①収穫した芋を小さい塊（1つのヤムを5つやそれ以上）にカットするミニセット法（10月に収穫）。ミニセット法には、下記の③で指摘されている小粒のイモの遺伝いが継承されない点、肥沃な土壌で根付くまで育成するため、病気に強い特性を持つなどのメリットがある。しかし、せっかく収穫して商品として売ることが可能な芋を種芋用に取っておくことになるため、農民にはあまり好まれていない。また、ヤムをカットする手間がかかり、さらにはそれを肥沃な土壌で根付くまで育成する必要があるため、なかなか普及しないという問題がある。

②芋の先端部分を茎に残した状態で、そのまま次の収穫まで残しておき、そこから新たなヤムを育てる方法（先端部分以外は7月に収穫し、食用にマーケットに売られる）。この方法では、大きなヤムを収穫できる。ただし、芋の先端部分をカットするため、傷みが早く市場での販売価格は安くなってしまうのが欠点であるため普及していない。

③一度7月に収穫したもののうち、小粒なものを種芋として用いる（10月に収穫）。この方法が通常採用されている。しかしながら、小粒なイモの遺伝子が次の世代にも伝達されてしまうという欠点が指摘され

ている[8]。

図 15　ヤムの種イモ採取方法



1）ヤムの病気

ヤムにとって害虫の被害は深刻であり、放って置くとヤム畑が全滅してしまうこともある。ガーナでも殺虫剤はあるが高価であり、通常の農民にとっては入手が困難である。このため、ガーナの農家では輪作や水はけを良くするなどの伝統的な方法で対処しているのが現状である。

図 16　主なヤムの病気、症状と対策

植物検疫問題		推奨管理体制
名前	症状もしくは被害	伝統的な対処法
炭疽病 *ストロビルリン系薬剤耐性イチゴ炭疽病菌*	よく見かける病気。 「スコーチ」もしくは「枝枯れ病」とも呼ばれる。 葉や茎における壊死性の病変。群葉の全滅をもたらすこともある。症状が厳しい場合大幅に塊茎の収量が低下する。	• 輪作、作付体系もしくは作物の組み合わせなどの慣習組織培養と病気にかかっていない小型の塊茎を用いる。 • 広い範囲の葉の殺菌剤と交互に殺菌剤を用いる。例：Dithane M45

[8] 社団法人　国際農林業協力・交流協会「アフリカのイモ類」

名前	症状もしくは被害	伝統的な対処法
斑点病 *セルコスポラ斑点病*	珍しい病気。 葉やつるにおける壊死性の病変。群葉全体が覆われ、葉が落ちる可能性がある。	• 感染した葉を集めて焼く。 • 健康な苗を用いる。 • 広い範囲の葉の殺菌剤と交互に殺菌剤を用いる。例：Dithane M45
斑点病 *カーブラリア葉枯病　セルコスポラ斑点病*	珍しい病気。 葉における壊死性の病変で、淡黄状のハローを伴うこともある	• 上記のセルコスポラ斑点病と同じように対処する。
コンセントリック（同心円状）斑点病, *Sclerotium 属*	珍しい病気。同心円状に起こる壊死性の病変。土壌伝播性。より低い方の葉に被害が大きい。 時々、葉に硬化がみられる。	• 支柱を立て、水がかかるのを減らすため根覆いをする。 • 水はけをよくする。 • 収穫後植物の堆積させるのをやめる 。 • 地域によって高い土手を利用する。
細菌性の腐敗病, *軟腐病菌*	微生物が、強烈な匂いとともに塊茎を軟腐させる。雨、昆虫、塊茎の損傷によって広まる。収穫量が 60～80%程度減少する。	• 除草、収穫、出荷を慎重に実施する。 • 木の灰と石灰でヤムの腐敗部分を洗浄する。 • 塊茎に 1100g/ha の割合でベノミル剤を用いる。 • 塊茎を傷つけるのを避ける。 • 在庫を調べ、感染した塊茎を避ける。
貯蔵腐敗病 *ペニシリウムシュウ酸,* *リゾクトニア病菌,　フザリウム属菌.,ボトリオディプロディアテオブロメ,　アスペルギルス症.その他*	時折発生する貯蔵病。乾燥と軟腐が起こる。時々塊茎上で菌糸が成長していくのが観察される。風、雨、昆虫、塊茎に対する損傷によって広まる。	• 除草、収穫、出荷を慎重に実施する。 • 木の灰と石灰でヤムの腐敗部分を洗浄する。 • 塊茎に 1100g/ha の割合でベノミル剤を用いる。 • 塊茎を傷つけるのを避ける。 • 在庫を調べ、感染した塊茎を避ける。
葉枯病, *紋枯病菌.*	広範囲に及ぶ水浸しの葉と斑点状の損傷が葉を枯れさせる。	• 支柱を立て、水がかかるのを減らすため根覆いをする。 • 水はけをよくする。 • 収穫後植物の堆積させるのをやめる • 地域によって高い土手を利用する。
根腐病(野外) *ポリポラス・サルフレウス.*	野外で根を腐らせる。	• 環境的な対策（病気になった根を取り除く)。

名前	症状もしくは被害	伝統的な対処法
線虫類 ***スクテロネマ ブラディス***	野外のヤムに感染し、乾燥腐敗をさせながら病原微生物の進入口を作り、収穫量と塊茎の質を悪化させる。塊茎の表面をひび割れさせる。他の病原菌を侵入させ、ヤムの品質に影響を与える。	• 種まき用のヤムを輸入する際にふさわしい環境で防除処置を行う。 • 塊茎を清潔にするためにお湯を用いる。 • 地上で慎重に選別する非宿主植物（例 穀類）との輪作にする。
根瘤 ***線虫類, メリオドギン属***	珍しい病気。 野外のヤムに感染し、病原菌の侵入させることで収穫量を減少させる。塊茎に奇形やこぶを作る。	• 種まき用のヤムを輸入する際にふさわしい環境で防除処置を行う。 • 塊茎を清潔にするためにお湯を用いる。 • 地上で慎重に選別する。 • 非宿主植物（例 穀類）との輪作にする。
ウイルス感染症: ***ヤム モザイク病,*** ***ポティウイルス,*** ***ウォーターヤム, 黄化病***	珍しい病気。 黄化病、モザイク病、葉のゆがみ、スコーチ、発育の妨げ。保菌生物：アブラムシ。	• 抵抗性品種を用いる。 • ウイルスを含まない種のヤムを使う。 • 組織培養の材料を用いる。
ヤムの塊茎 **甲虫, メレスマルカブト（カメルーンの甲虫)**	よくある害虫。 成虫は、ヤムが配置されるとすぐにヤムの塚に穴をあけトンネルを掘り、ヤムの塊茎を攻撃する。	• 栽培場所を沼地の地域から離れた場所にする。 • ヤムを殺虫剤に浸す（例：作付けの前に使用する OP 剤またはアクテリック）。 • 表出している塊茎を覆うために塚を作る。
ヤムの葉甲虫 ***穀物研究所（CRI）oceris livida,*** ***Lemaarmata***	珍しい害虫。成虫幼虫ともに、茎への「枝枯れ病」と落葉を引き起こしながらヤムの葉を食べる。	• 適切なタイミングで鍬を入れ、さなぎを表出させ、ライフサイクルを破壊する。
カイガラムシ	珍しい害虫。小さく扁平な虫で、脚が見えない。葉に堅固に張り付き、樹液を吸う。	• 清潔な植え付け用具を用いる。 • ヤムの作付けを行う前にジメトエート剤をまく。
コナカイガラムシ	あまり見かけない害虫。主に塊茎と新芽に影響を及ぼす。塊茎の表面に見られ、樹液を吸う。	• 適切な作付け材料を用いる。 • 感染した塊茎のチリを払う。 • 線虫類を処理するお湯による処理を適用する。 • 植え付けの前に OP 剤もしくはアクテリックに浸す。

名前	症状もしくは被害	伝統的な対処法
ヤスデ類	時折見かける害虫。二次感染（腐敗）を引き起こしながら塊茎の中に穴をあけ、食べる。	• 衛生設備など適切な作物の耕作を順守し、森林（繁殖場所）から離れたところを用地とする。 • 表出した塊茎を覆い、裂け目をふさぐ。 • 複数の種類の塊茎を用い、深く埋める。
シロアリ， *マクロテルメス亜科．タイワンシロアリ*	ヤムの茎の新芽を食べ、出芽を妨げる。	• 損害箇所の植え替えをする。 • ヤムを殺虫剤に浸す（例：OP 剤またはアクテリック）
貯蔵型ヤム甲虫， *ワタミヒゲナガゾウムシ，ガイマイデオキスイ，コヒメコクヌストモドキ*	時折見かける害虫。成虫は塊茎に穴をあけ、塊茎の質を下げる。	• 収穫、輸送時に気をつけ、塊茎を傷つけない。清潔に貯蔵する。

出典）クロスインデックスの現地調査に基づく

2）ヤムの品種

ガーナのヤムは大別すると、White Yam（D. rotundata）、Yellow Yam（D. cayenensis）、Water Yam（D. alata）、Potato yam（D. bulbifera）、Lesser Yam（D. esculenta）、Wild Yam（D. praehensilis）、African bitter Yam の 7 種類となる。この中でもっともポピュラーなのが White Yam である。White Yam の種類は、さらに Puna、Laribako、Asana、Dente（Punjo）、Serwaa などに分類できる。White Yam の中で最も人気があるのが Puna であり、高級食材として高額で取引されている。

（2） キャッサバ

ガーナにおいてキャッサバの増産が取り組まれるようになったのは、キャッサバが乾燥に強く、干ばつの際に他の作物が枯れてしまっても、収穫できる可能な作物であったためである[9]。

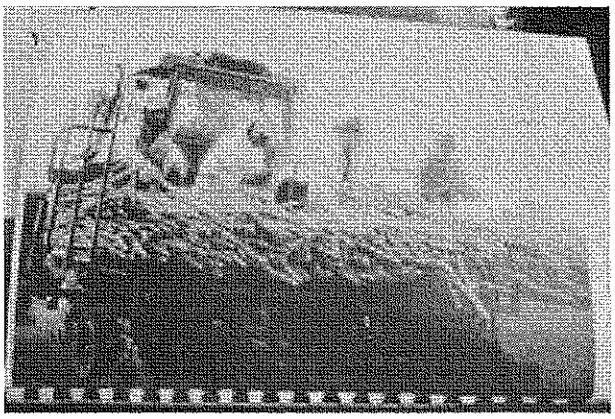
キャッサバの栽培ではヤムのような大きなマウンドは通常使われない（一部、ヤムを収穫した後のマウンドを利用してキャッサバを輪作する方法も採られている）。土壌を柔らかくするために必要なトラクターなどの導入は進んでいる。キャッサバは茎を 20cm 程度にカットしたものを用いて植える。通常は手作業で植えるのであるが、一部では植え付け機なども導入されつつある。また、キャッサバの栽培では、特に植え付けの際に水が必要であるため、水の散布機などもある。

このようにガーナではキャッサバの生産性を向上させるような機械の導入はブラジルなどの支援を受けて徐々に進みつつある。

---

[9] 1983 年にガーナで発生した干ばつの結果、食糧不足を乗り切るための作物としてキャッサバの重要性が見直され、それ以降、キャッサバの増産、スターチなどの加工品の加工工場などの整備が行われるようになった経緯がある。ガーナの気候変動と対策については、Climate Investment Fund, “Climate Risk and Adaptation Country Profile 2011” を参照。http://sdwebx.worldbank.org/climateportalb/doc/GFDRRCountryProfiles/wb_gfdrr_climate_change_country_profile_for_GHA.pdf

図 17　キャッサバの植え付け機



出典）Amasa Agro-Processing Co. Ltd 社より入手

図 18　システム化と機械化によるエーカー単位でのキャッサバ耕作にかかる労働コストの比較

単位:GHC

技術/仕組み	ココア（品質並）	ココア（品質上）	とうもろこし（品質上）	野菜	穀類	たまねぎ（品質上）
手作業のみ	682	408	-	215	293	-
手作業及び機械	-	-	490	187.5	283.00	-
手作業及び農薬	574	-	485	-	-	-

出典）IFPRI discussion paper 01074, March 2011

1）キャッサバの病気

食料農業省 植物保護規制サービス課（PPRSD：Plant Protection Regulatory Services Division）は、キャッサバで重要になる害虫の駆除などのための化学薬品を開発している。しかしながら、キャッサバの病害虫対策分野における政府の支援はあまりないのが現状である（ココア農園などの支援が中心で、化学薬品や肥料がある）。そのため、病害虫駆除のための研究資金などは不足している。

キャッサバの病気で感染力が強く最も重大なものはモザイク病であるが、これはウイルスによって引き起こされる[10]。ガーナでは多くの農家がキャッサバに感染した茎であることを認識せずに植え付けを行ってしまうため、さらに被害が重大になっている事実もある[11]。この対策として、天敵の虫を利用して、病原虫を駆除する方法なども採られている。

[10] http://www.psc.riken.jp/news/101201/press.pdf
[11] 農業農村開発協会（Agricultural and Rural Development Association）からのヒアリングによる。

2）キャッサバの種類

キャッサバは大別すると、苦味種と甘味種に分けることが出来る。苦味種には、Agbelifia、Bankyehemaa、'Esam' bankye、 Doku duade などがあり、甘味種には、Eskamaye、Nyerikobga、IFAD、Nkabom などがある。Bankyehemaa は苦味種に分類されるが、甘味種との中間的な性質を持っている。

一般に毒性の強い苦味種は病気や害虫への耐性が強く、甘味種の耐性は弱い。甘味種は農民が耕作の中でも洗って食べることが出来るように毒性が弱く、この簡易さから農民には好まれている。苦味種は加工用でガリ、スターチ、キャッサバ粉などとして流通している。

最近では、キャッサバの茎の品種を増やして収穫の多い品種、病気に強い品種などを開発している。開発した新たな品種を農民に提供して実際に、効果を上げるのが今後の課題である。

2． カメルーンにおける生産と農業の現状と問題

（1） ヤム

2010 年の FAO の統計では、カメルーンにおけるヤムの年間生産量は約 41 万トンとなっており、年々増加してきている。また、2003 年のカメルーンの統計によれば、耕作面積は 120,418.17 ha で、カメルーンの全村 3,092 のうち 1,477 村で栽培されている[12]。

また、国内のイモ類の中ではキャッサバやココヤムに次いで、3 番目に生産量の多い農産品である。

図 19 カメルーンのイモ類の生産比率（2003 年）

根菜類	生産順位	割合
キャッサバ	1位	50%
タロ芋	2位	25%
ヤム	3位	16%
サツマイモ	4位	5%
ジャガイモ	5位	4%
合計	-	100%

出典）IRAD

カメルーンではさまざまな種類のヤムが栽培されているが、African bitter yam（Dioscorea dumentorum）と White yam（D. rotundata）が中心である。

カメルーンで最も多く産出されている African bitter yam は現地の市場では Sweet yam とも呼ばれている。保存性に問題があり、長期保存ができないのが難点である。市場では安い価格で取引されている。

一方の White yam は現地では Kalaba yam と呼ばれている。カメルーンでは、African bitter yam の次に多く産出されており、African bitter yam ほどではないが、長期保存はできない。しかし市場での取引

[12] IRAD、PNDRT の統計データ。

価格は高い。

カメルーンで最も好まれているのは、White yam (Kalaba yam) で、次いで African bitter yam (Sweet yam) といわれている。すなわち、カメルーンにおけるヤムの市場指向性は「安い Sweet yam」「高価な Kalaba yam」に対するニーズが多く、これが需給バランスと価格形成にも反映されていることが推測できる。

図 20　カメルーンにおけるヤムの品種別生産状況

種類	割合(%)
African Bitter Yam/Wild Yam (D.dumentorum)	38
White Yam (D.rotundata)	34
Yellow Yam (D.cayenensis)	23
Water Yam (D.alata)	5

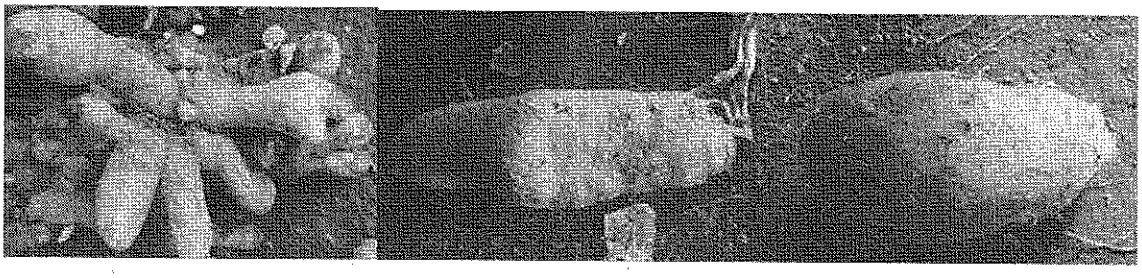
出典) IRAD

図 21 カメルーンの主要なヤムの特徴

品種	現地での呼び名	価格	備考
African Bitter Yam/Wild Yam (D.dumentorum)	Sweet Yam	安価	カメルーンで最も多く産出される品種。安値で取引される。長期の保存ができない点が難点。
White Yam (D.rotundata)	Kalaba Yam	高価	カメルーンでは最も好まれている品種。保存に難がある。高価な品種。
Yellow Yam (D.cayenensis)	Yellow Yam	普通	カメルーンでは 3 番目の取引量。
Water Yam (D.alata)	Water Yam	普通	カメルーンでは取引量の少ないヤム。

図 22　カメルーンのドゥアラ中央市場で取引されていたヤム

Sweet Yam　　Kalaba Yam　　Water Yam



次に、カメルーンにおけるヤムの生産農家の現状について見てみる。カメルーンでは耕作などの肉体労働を担当する男性のみならず、女性もヤムの生産に携わっている。また、農業団体などのグループだけではなく、個人経営の農家もヤム栽培に携わっている。

すなわち、カメルーンにおけるヤムの栽培には農村の男性、女性、個人とグループ全てが関わっており、

参入する敷居が低いことがわかる。この点、ヤム栽培の推進と消費拡大が農家における雇用の促進という面でも期待できると言える。

カメルーンでは比較的簡単にヤムを開始できる点については、ヤムの生産農家の規模からも類推できる。この点について、農業開発研究所（IRAD：The Institute of Agricultural Research for Development）では、カメルーンのヤムの生産者は以下の3つのカテゴリーに分けている。

○マイナーグループ：1ha未満の耕作面積の農民。全体の65%を占める。
○アベレージグループ：1ha～3haの耕作面積の農民。全体の25%を占める。
○メジャーグループ：3ha以上の耕作面積の農民。全体の10%を占める。個人的な大規模農家の他に、農業組合などもこのグループに含まれる。

この農業開発研究所（IRAD）の調査からも、カメルーンのヤムの農家は圧倒的に小規模農家が多いことが分かる。実際、ヤムの生産方法でも手作業が中心となっており、農業機械の導入による大規模経営はあまり進んでいない。

他方、ヤムの消費の内訳を見てみると、18%が農家の自主消費用、23%が種イモ用で、57%が市場に出回っている。このように市場に出回る商品作物としての性格が強いヤムは換金作物としての性格を持ち、中小の農家にとっては大きな収入源となっている。

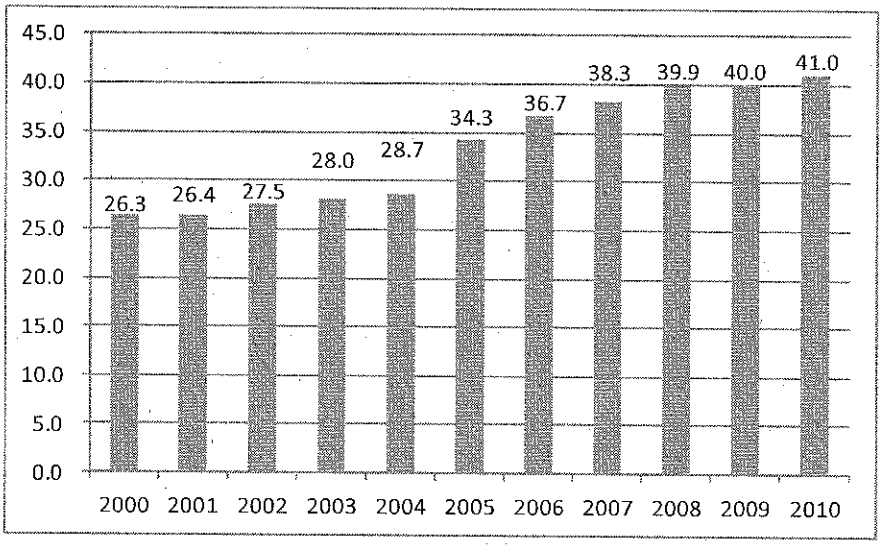
カメルーンにおけるヤムの栽培期間は以下のようになる。

○White yam、African bitter yamは、8～9カ月
○Yellow Yamは、10ヶ月以上
○Water Yamは、8ヶ月未満

11～3月までが整地から植え付けまでの時期である。収穫は8～2月までである。

図 23　カメルーンのヤム生産量

単位：万トン



出典）FAOSTAT よりクロスインデックス作成

カメルーンでのヤム栽培に求められる要件として、研究所やオフィス、土地等のインフラが十分なこと、ヤムに詳しい人材が豊富なこと、ヤムの栽培に適した天候であること、多様な品種のヤムがあり選択の幅が広いこと、ヤムの需要が大きいこと等が挙げられる。

農業開発研究所（IRAD）によれば、ヤムは最低でも現在よりも 30%の増産が見込まれている。生産性向上に必要な施策として、収穫量の多い改良品種の普及、土壌の調査、輪作をはじめとする技術的な対策の他に、組合などの組成や農民への融資システムの整備などが挙げられている。

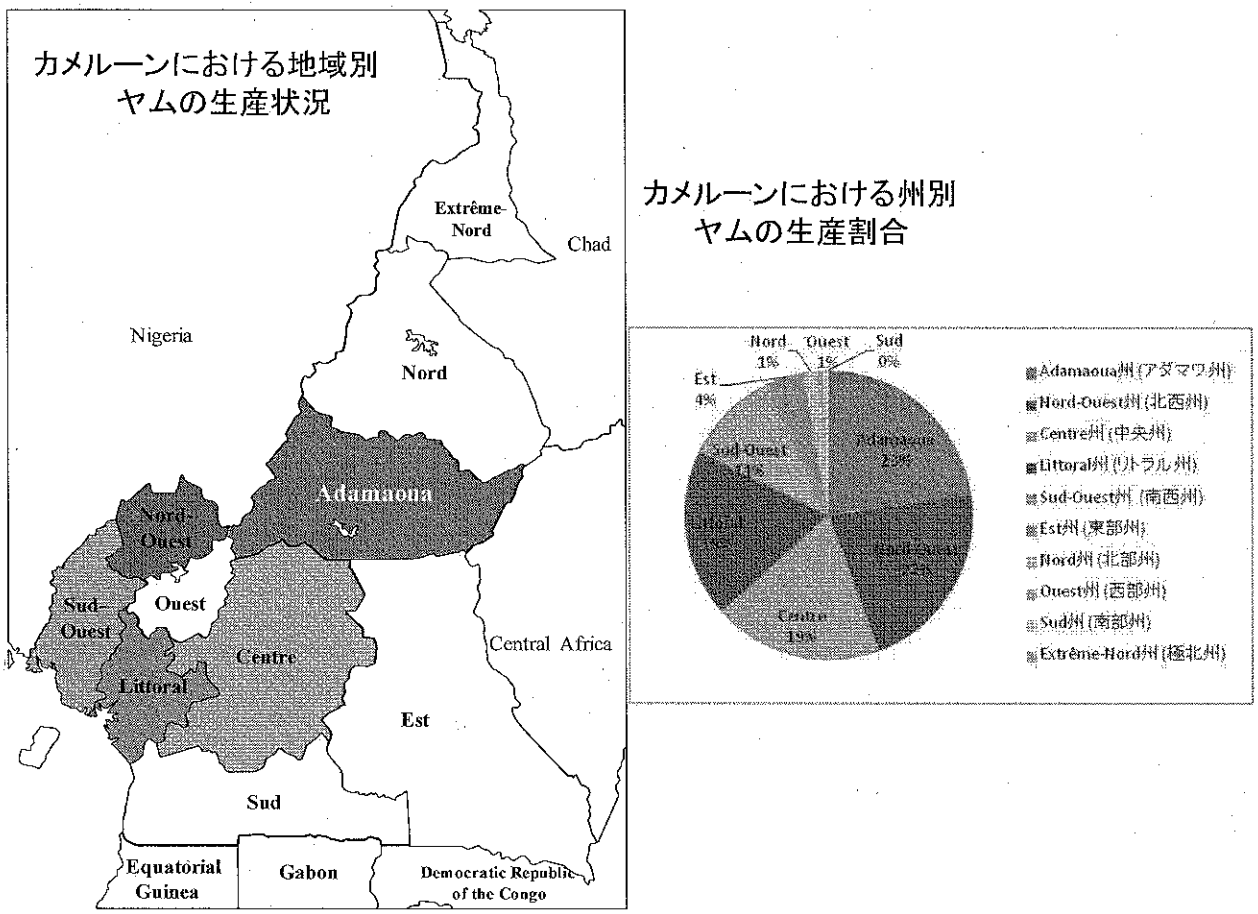
ヤムの生産上の問題は、改良品種（植え付け資材：Planting material。ヤムの場合には種イモ）の普及、労働力の確保、収穫後（ポストハーベスト）の保存と輸送が挙げられる。

カメルーンにおけるヤム栽培では、市場で販売するサイズのヤムを 30g くらいに細かく切って、栽培に用いるミニセット法も採用されつつある。ただ、現在のカメルーンでは、通常はサイズの小さいもの（20～30g）を種イモとして用いる。また、病気対策のために様々なヤムを導入したり、葉をカットする方法なども採用したりしている。これらの方法は国際熱帯農業研究所（IITA）とともに農民への普及を進めている段階である。

ヤムを栽培する最初の工程である整地ではマウンドと畝が用いられている。North West 州では、畝を使って生産性を向上させているが、これは人手によるものである。畝を使うことが生産性向上に繋がる事は分かっているが、そもそも整地で機械を用いていないという問題がある。これら機械は借りることも可能であるが、個人的な農家ではコストパフォーマンスが悪く借りられないのが現状である。農業組合を通じて借りることは可能であるが、資金余力や機械へのアクセシビリティなどから全体の 10%程度しか借りられていないであろうし、協同組合（CIG：the Common Initiative Group）についてはもっと少ないと予想される。農民が機械を借りるのには、集団で組織的に実施することが前提である。機械の方が徐々に経済的に採算がとれるようになってきているが、小規模農家の場合にはそうではない。

農業機械のレンタルについてカメルーンでは、農業系準国営団体が担当している。農業・地方開発省（MoARD：Ministry of Agricultural and Rural Development）ではなく、科学調査・技術革新省（MoSRI：the Ministry of Scientific Research and Innovation）が対応している。

図 24　カメルーンにおける地域別ヤムの生産状況



出典）塊茎類市場推進開発プログラム（PNDRT）、ヒアリング等によりクロスインデックス作成

（2）　キャッサバ

カメルーンのキャッサバ生産量は世界で第 17 位である。ただし、カメルーンのイモ類の中で最も多く生産されているのがキャッサバであり、国内では多様なキャッサバ加工品が流通している。FAO の統計によればカメルーンのキャッサバの年間生産量は 302 万 4,000 トンとなっており、生産量は年々増加してきている。また、カメルーンの国内統計によれば、2005 年の段階でキャッサバの耕作面積は 205,000 ha となっている。

このキャッサバは、痩せた土地でも耕作可能で多様な製品に加工でき、付加価値を付けやすいこともあり、女性にとっての重要な収入源（男性はココアを中心に栽培）として考えられている。加工品の中では特にガリが重要な食物と考えられている。カメルーンにおけるキャッサバを栽培する際の耕作方法にはフラット（何もしない）、マウンドの利用、畝の利用という 3 つの方法が採られている。畝を作る場合には、畝と畝の間に有機物質がたまり栄養分となる等のメリットがある。しかしながら、雨の多い Littoral 州や South West 州などでは畝を利用すると土壌の浸食がすすむなどのデメリットがある。ただし、専門家によ

ると畝を作る方向によって土壌浸食は防げるという意見もある。基本的には等高線と平行に畝を作ると土壌浸食防止可能であり（等高線栽培）、実際、東南アジアなど降雨量の多い地域では、河川に沿ってカウンター状に作られている。

また、農業機械の導入が進んでいないカメルーンでマウンドや畝を作る際には人手によるものが中心となるため、コストが多くかかることも問題となっている。

大手の農家の場合には、キャッサバだけを栽培することもあるが、多くの地方農家の場合には、ラッカセイ、マメ類、その他の野菜などと混作されている。

キャッサバの耕作をする際に、事前に森林地帯を焼き払い整地する焼畑農法（Slash and burn fallow system）もある。もともと焼畑農法はサブ・サハラでは一般的な農法であったが、近年では温暖化ガスの排出など環境破壊につながるなどの理由で徐々に好まれなくなってきている。

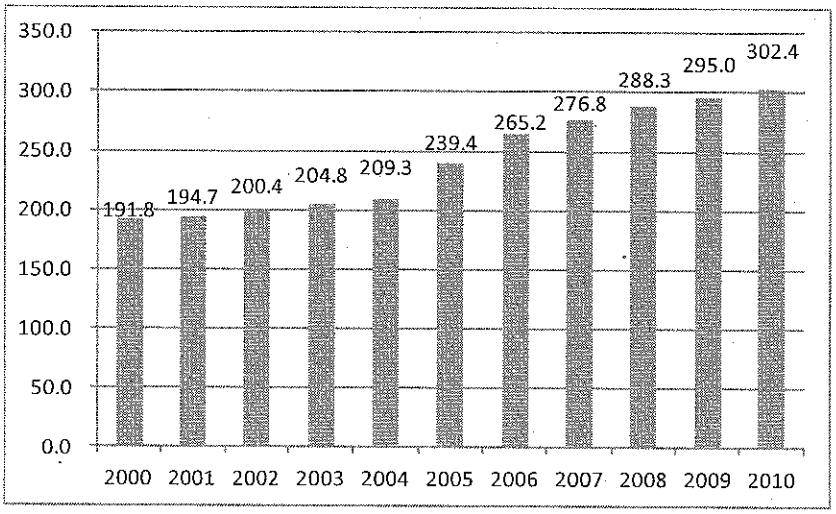
家畜の厩肥を利用する方法はあまり普及していない。カメルーンでは牛などの牧畜が盛んでない点、中小農家にとっては肥料の価格が高い点が原因である。また、混作も実施されている。Tithonia（ヒロハヒマワリ：キク科チトニア属）、Crotalaria（タヌキマメ：マメ科タヌキマメ属）などをキャッサバとともに植えて、害虫を防ぎ、病気を減少させ収益性を向上させている。これらの植物のうち、いくつかは国際熱帯農業研究所（IITA）から購入している。

Sud 州、Centre 州、Est 州の 3 つの州（エコロジカルゾーン）では従来から 40 種類ものキャッサバが栽培されていた。これらは収穫量が少なく（8～10t/ha）、病気にも弱いという弱点を持つものの、味が良いため、古くから農家に受け入れられて普及してきた。このような種（従来種）を保存するためにバンマヨに遺伝子資源バンクを設けている。

その一方で収穫量が多く（30～40t/ha）、病気に強く、味が良くて調理が楽等の特性を持つ品種も開発している。農業開発研究所（IRAD）と国際熱帯農業研究所（IITA）で改良に取り組んでおり、現在は、農民への普及を努めている段階である。

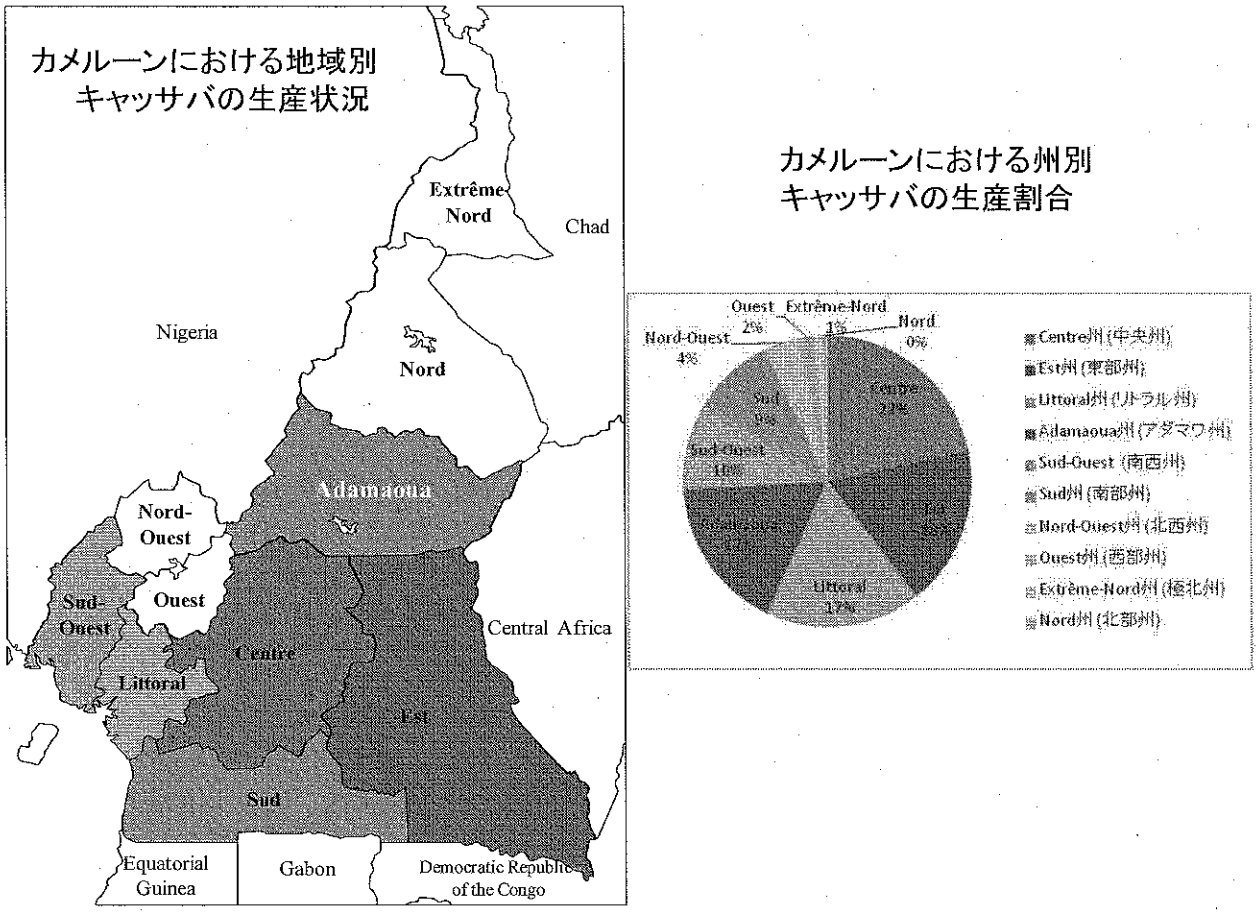
図 25　カメルーンのキャッサバの生産量

単位：万トン



出典）FAOSTAT よりクロスインデックス作成

図 26　カメルーンにおける地域別キャッサバの生産状況



出典）塊茎類市場推進開発プログラム（PNDRT）、ヒアリング等によりクロスインデックス作成